

養殖衛生管理体制整備事業

増養殖環境課 谷口 越則・占部 敦史・山下 樹徹

1 目的

近年、食品の安全性に対する消費者の要求が高まっており、特に養殖水産物に関しては、現場で使用されている医薬品の使用状況や養魚用飼料の給餌状況、養殖漁場環境について関心が寄せられている。

本事業は、このような状況に適切に対処するため、養殖水産物の安全性を確保し、安全で安心な養殖魚の生産に寄与するため、魚病対策のみならず食品衛生や環境保全にも対応した養殖衛生管理体制の整備を推進することを目的とする。

2 内容

(1) 総合推進対策

1) 全国養殖衛生対策推進会議

開催日	開催場所	主な構成員	主な議題
中止	東京都	農林水産省消費・安全局、各地方農政局、水産庁、内閣府沖縄総合事務局、水産研究・教育機構水産技術研究所、日本水産資源保護協会、各都道府県魚病担当者	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

2) 地域検討会

①瀬戸内海・四国ブロック魚病検討会

開催日	開催場所	主な構成員	主な議題
2020.9.4	メール会議	三重県、和歌山県、大阪府、兵庫県、岡山県、広島県、愛媛県、香川県、徳島県、高知県、福岡県、大分県、水産研究・教育機構水産技術研究所、農林水産省消費・安全局、中国四国農政局、日本水産資源保護協会	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年8月から2020年7月までの魚病発生状況 ・地域内における魚病に関するトピックス・問題点 ・水産技術研究所魚病関連部局への研究開発ニーズ及び水産庁、消費・安全局等への要望事項

②南中九州・西四国地域魚類防疫対策合同検討会

開催日	開催場所	主な構成員	主な議題
2021.2.1 ～2.19	メール会議	鹿児島県、熊本県、大分県、宮崎県、高知県、愛媛県、長崎県、愛媛県愛南町、水産研究・教育機構水産技術研究所、鹿児島大学、水産大学校、日本水産資源保護協会、農林水産省消費・安全局、他10企業、4漁業協同組合、獣医師1名	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年4月から12月までの各県魚病発生状況の報告 ・話題提供・研究発表 ・総合討議

(2) 養殖衛生管理指導

1) 医薬品適正使用指導

実施時期	実施場所	対象者(人数)	内 容
2020年4月～ 2021年3月	水産試験場	魚病診断依頼業者(23)	水産用医薬品の適正使用方法に関する説明・指導

2) 適正な養殖管理・ワクチン使用指導

① 県中央部における水産用ワクチンの使用指導実績

2020年度における水産用ワクチン使用指導書交付件数は26件で、総投与尾数は1,394千尾であった(表1)。

表1 2020年度ワクチン指導実績

ワクチンの種類	用法	件数	尾数(千尾)
α レンサワクチン(I型)	注射	10	730
α レンサワクチン(I型・II型)	注射	4	180
α レンサ(I型・II型)・イリド・ビブリオ混合ワクチン	注射	11	434
α レンサ(I型・II型)・イリド・ビブリオ・類結混合ワクチン	注射	1	50
合計		26	1,394

(3) 養殖衛生管理技術普及・啓発

1) 養殖衛生管理技術講習会

開催日	開催場所	対象者	内 容
2020.9.10	宿毛市	漁協関係者、養殖業関係者	ワクチン接種技術講習会
2020.11.25	大月町	漁協関係者、養殖業関係者	魚類防疫に関する講習会
2021.2.16	宿毛市	漁協関係者、養殖業関係者	ワクチン接種技術講習会

(4) 養殖場の調査・監視

1) 医薬品残留検査

検査方法	実施時期	検体採取場所	対象魚種	対象医薬品	検査数	陽性数
簡易法	2021.2月	野見湾	カンパチ出荷魚	抗生物質	10	0

(5) 魚病対策

1) 魚病監視対策

野見湾において白点虫の寄生状況調査を実施した(表2)。本年度は白点病による養殖魚類への大きな被害は確認されなかった。

表2 白点虫寄生状況調査結果

魚種	魚齢	検査結果	月											合計	
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2		3
カンパチ	0	白点病 (-)							3	1	1				5
		白点病 (+)							2	4					6
	1	白点病 (-)						2		1					3
		白点病 (+)							1	3					4
	計		0	0	0	0	0	2	6	9	1	0	0	0	18
	陽性率		0%	0%	0%	0%	0%	0%	50%	78%	0%	0%	0%	0%	56%

魚種	魚齢	検査結果	月											合計	
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2		3
マダイ	0	白点病 (-)						2		1					3
		白点病 (+)							1	3					4
	1	白点病 (-)							6	2	2				10
		白点病 (+)								2					2
	計		0	0	0	0	0	2	7	8	2	0	0	0	19
	陽性率		0%	0%	0%	0%	0%	0%	14%	63%	0%	0%	0%	0%	32%

検査結果	月											合計		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2		3	
全体	白点病 (-)						4	9	5	3				21
	白点病 (+)							4	12					16
計		0	0	0	0	0	4	13	17	3	0	0	0	37
陽性率		0%	0%	0%	0%	0%	0%	31%	71%	0%	0%	0%	0%	43%

2) 魚病検査

2020年度の魚病検査は46件であった(表3)。46件のうち、カンパチが23件、マダイが11件、ブリが8件及びその他魚種が4件であった。

表3 魚病検査件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
魚病検査件数	1	6	5	8	2	11	1	5	1	2	2	2	46

① カンパチ

2020年度におけるカンパチの魚病検査結果を表4に示す。カンパチでは11月にレンサ球菌症(*Lactococcus garvieae* II型)の発生が多くみられた。

表4 カンパチの魚病検査結果

魚種	病名	月												計		
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
カンパチ	エラムシ症		1		1											2
	ノカルジア症									1			1			2
	ビブリオ病								1							1
	ビブリオ病・滑走細菌症		1													1
	マダイイリドウイルス病								1							1
	レンサ球菌症				1	1	1				3			1	1	8
	滑走細菌症・エラムシ症					1										1
	住血吸虫症											1				1
	住血吸虫症・エラムシ症											1	1	1		3
	住血吸虫症・心臓クドア症・滑走細菌症								1							1
	白点病											1				1
	類結節症					1										1
	計	0	2	1	4	1	3	1	5	1	2	2	1		23	

② マダイ

2020年度におけるマダイの魚病検査結果を表5に示す。マダイでは9月にレンサ球菌症 (*S. treptococcus iniae*) の発生が多くみられた。

表5 マダイの魚病検査結果

魚種	病名	月												計		
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
マダイ	エラムシ症・滑走細菌症			1												1
	ビブリオ病・滑走細菌症		1													1
	マダイイリドウイルス病							1						1		2
	レンサ球菌症		1					5								6
	不明						1									1
	計	0	2	1	0	1	6	0	0	0	0	0	0	0	1	11

③ ブリ

2020年度におけるブリの魚病検査結果を表6に示す。ブリでは6～7月にマダイイリドウイルス病の発生が多くみられた。

表6 ブリの魚病検査結果

魚種	病名	月												計		
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
ブリ	ハダムシ症				1											1
	マダイイリドウイルス病				1	1										2
	マダイイリドウイルス病・類結節症				1	1										2
	マダイイリドウイルス病・類結節症・滑走細菌症				1											1
	レンサ球菌症							1								1
	不明		1													1
	計	1	0	3	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	8

④ その他の魚種

2020年度におけるその他の魚種の魚病検査結果を表7に示す。シマアジでは細菌性脳髄炎症及び類結節症が発生した。

表 7 その他の魚種の魚病検査結果

魚種	病名	月												計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
シマアジ	細菌性脳髄炎症						1							1
	類結節症・滑走細菌症		1											1
クロマグロ	滑走細菌症・ビブリオ病				1									1
サツキマス	不明		1											1
計		0	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	4

⑤ その他

2017年度にリアルタイム PCR 機器を導入し、2018年度以降は魚病検査に活用している。特にウイルス性疾病が疑われる場合はリアルタイム PCR による検査を行った。ただし、リアルタイム PCR は高感度であるため、各疾病について症状がみられ、リアルタイム PCR で陽性になった場合は確定と扱い、症状が不顕性でリアルタイム PCR 陽性の場合は疑いとして扱った。